

沼津西ロータリークラブ



2024～2025 年度・クラブテーマ

「 Try It Now 」 やってみよう

会 長 鈴木 和憲 / 幹 事 久松 但

第 1528 回 第 34 巻 27 号 2025 年 03 月 06 日
■■本日のプログラム■■
地区米山学友卓話 澤崎 宏一様

■3月のプログラム■	
1529 回 12:30 03 月 13 日(木)	年男・年女の抱負 羽切勝利君 瀬川ゆう子君 理事会⑨
03 月 20 日(木)	祝日週休会
1530 回 12:30 03 月 27 日(木)	インターアクト活動報告 奉仕プロジェクト委員会 加藤学園 IAC 生徒

出席報告 会員数 20 名			
例 会	会員数	出席数	出席率
1528 回	19 名	16 名	84.21%

例 会 場 〒410-0046 沼津市米山町 3-37

アクアガーデン迎賓館沼津

TEL 055-920-5200

事 務 局 久松会計事務所内

TEL 055-961-2050 FAX 055-961-2600

E-mail: numawestrc@gmail.com

例 会 日 毎週木曜日 12:30 点鐘

公共イメージ向上委員長 名古 良輔 / 編集者 富岡 由樹

会長挨拶

● 会長 鈴木 和憲

3 月は「水と衛生月間」です。

きれいな水と衛生設備が利用できることは人権の一つですが、その恩恵を受けられない人も大勢います。ロータリー会員は、地域社会において安全な水への持続的なアクセス、衛生設備の改善、衛生管理の研修を提供しています。特に子供がきれいな水や改善された衛生設備を利用でき、より良い衛生習慣を身に付けられるようになれば、その生活はより健康的で実りあるものになるでしょう。

ロータリーの「水と衛生月間」である 3 月には、2030 年までに全ての人に安全な水と設備、衛生環境を提供するというロータリーの目標達成に向けた取り組みを呼びかけます。

地域社会における安全な水の提供や、衛生設備の改善を目指す活動を起こしています。例えば、パプアニューギニアでは、ロータリークラブが雨水貯水タンクと配水センターを設置し、地元の女性や学生に研修を提供しました。また、グアテマラでは、10 校にトイレや手洗い場を設置し、タンザニアでは、水供給システムを導入しました。さらにロータリー財団のプログラムは、教育と持続可能性に焦点を当てており、地域のニーズに応じたプロジェクトを推進しています。このように、ロータリーは水と衛生の重要性を広めるための取組みを行っています。

安全な水と衛生設備を提供した上で、衛生や伝染病予防に関する教育も行うことで、コミュニティ全体の生活を改善し、子供の通学率を高めています。

安全な水と衛生設備の利用は、全ての人々が持つべき権利であり、汚染水で病気になる人や、命を落とす人が後を絶ちません。未来を担うはずの子供たちは、水汲みなどの労働によって学校に通えず、つらい境遇を強いられています。

私たちの活動は、井戸を掘るだけではありません。安全な水と衛生設備を提供したうえで、衛生や伝染病予防に関する教育も行うことで、コミュニティ全体の性格を改善し、子供の通学率を高めています。

- ゲスト** 1.澤崎 宏一様：ロータリー財団奨学生
- 欠席者**(3名) 穎川ゆう子、下原満知子、渡邊勝也
- 他クラブへの出席者**
植松正、下田朗弘(3/1 地区チーム研修セミナー)

●**スマイル報告**

- 1.山田和典：誕生日のお祝いありがとうございます。
- 2.芹澤貞治：家族の誕生日のお祝いありがとうございます。
- 3.宮島賢次、4.植松 正、5.富岡由樹：入会記念日のお祝いありがとうございます。
- 6.鈴木和憲、7.久松 但、8.宮島賢次：澤崎様、本日の卓話、よろしく願います。
- 9.杉山真一：羽切さん、穎川さん、次週の卓話願います。澤崎様、本日は、卓話願います
- 10.宮島賢次：ご無沙汰しております。
- 11.鈴木和憲：来週の3/13の例会は、休みます。
- 12.本村文一：所用にて早退します。
- 13.富岡由樹：テーブル会残金です。

幹 事 報 告

1. 他クラブの例会変更

- ①沼津 RC 3/21(金) 休会 MU：無し
- ②富士山吉原 RC 3/13(木) 夜間例会 MU：無し
3/20(木) 祝日休会 MU：無し
- ③沼津柿田川 RC 3/12(水) 3/1へ変更 MU：無し
3/19(水) 3/16へ変更 MU：無し
- ④富士宮西 RC 3/21(金) 35周年記念例会 MU：無し
3/28(金) 祝日週振替の為 MU：無し

2.報告、連絡事項

次週3/13は、例会後、理事会がありますので、各理事は提案資料の提出をお願いいたします。

卓 話



**「米国における日本語の国際化」
静岡県立大学 澤崎宏一様**

現在米国での日本語学習人口は世界で7番目に多く、大学生だけに絞ると世界3位と

なります(2021年国際交流基金報告)。また、大学で日本語を外国語の授業として選択する割合は、スペイン語やフランス語などに続き4番目に多いという調査結果もあります(2021年MLA報告)。このように、米国の大学で日本語への注目度が高いのはなぜでしょうか。

米国で日本語学習者数が増えた最初の理由は第二次世界大戦でした。敵国の言葉である日本語がわかる人材を育成するために、米軍部が大学で日本語教育を推進させたのです。この時期に日本語を学んだ学生には、のちに有名となるドナルド・キーンやエドワード・サイデンスティッカーなどもいました。

終戦後、次に日本語教育が盛んになるきっかけは東西の冷戦でした。宇宙競争でソ連に先を越された米国は、科学技術や外国語の教育により多くの予算を充てる国防教育法を通過させます。これにより、日本語を学ぶ学生にも奨学金が付与されるといった恩恵が与えられ、日本語学習者が増えていくこととなりました。第二次世界大戦や冷戦という、人類の争いが日本語教育の促進に貢献したというのは、とても皮肉な話です。

80年代の日本経済のバブルは、日本語の学習熱をそれまでと比べ物にならないほど高く押し上げました。日本車やウォークマンといった日本製品が普及していった結果、日本語を勉強して就職やビジネスチャンスにつなげたいと思う学生が、日本語の教室に殺到するようになります。日本語の授業数も教員数も足らず、多くの大学がうれしい悲鳴をあげていました。しかし、バブルの崩壊とともにこの日本語ブームは終わってしまいます。

その後、日本語熱は後退の一途をたどるかに思われました。ところが、アニメやコンピュータゲームといった現代日本文化がバブル期に若者の間で浸透していったことが、日本語熱の後退を食い止め、学習者数をさらに伸ばす要因となりました。今でも、日本文化の影響が日本語教育の大きな下支えとなっているのです。